

四月から七回にわたって掲載してきました小学生の「家庭の日」に関する作文も、今回が最終回です。これらの作文をおして、子供たちにとって「家庭の日」が、どんなに楽しく、うれしいものであるかわかりただけだと思えます。
この機会に「家庭の日」の意義について、もう一度考えてみたいと思います。

「家庭の日」とは みんなでつくる たのしい家庭

昭和四十年始め 秋田・鹿児島で

「家庭の日」運動は、昭和四十年の初めごろから、秋田県や鹿児島県で始められました。この時期は、たまたま戦後の家庭教育のあり方や、反省が全国的に強まっていた時で、この「家庭の日」運動はまたたくまに全国各地に広がり、現在では全国的な住民運動となつて盛りあがりを見せています。

家庭は生活の オアシスの場

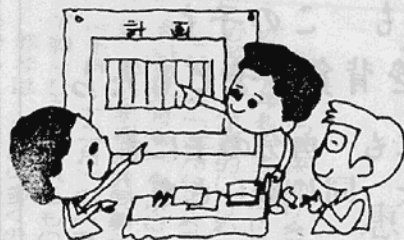
家庭は、家族の生活の場であつて、最少の社会集団です。他人集団（職場や学校での社会関係）での生活による心身の疲れをいやしやすらぎと余裕を得る生活のオアシスとなる場で、次のような機能があるといわれています。

- 産児 養育 ○精神的安定
 - 疲労回復と活動力の再生産
 - 経済生活の保障 ○家庭教育
- このような働きは、今後、家庭がどのように形態を変えようとも人間形成の基本的な場となることは永遠に変わらないものと思えます。

しかしながら最近の家庭は、核家族化、少子化、職住の分離、テレビなどの娯楽機器の普及により、十分な教育機能（話し合いをする時間等）を果たし得ない傾向が強くなるなど、さまざまな問題をはらんでいます。このため、家庭教育の重要性や家庭だけでしか果たし得ない教育機能について、親の理解と認識を深めて、健全な明るい家庭づくりを進めようとするものです。

第三日曜日は「家庭の日」のキツカケ

本来、毎日が「家庭の日」であるべきですが、前述のような要因によつて困難となつている現状か



計画を家族みんなで話し合ひましょう

家庭の日 作文集から

最終回

わたしの家では、家庭の日はありません。だけど夕食の時間が、家庭の日のかわりです。家では、夕食の時いつも全員をそろつています。

いろいろな話題を出して、みんなで話しをします。大人の話しはよく分らないけど、わたしが一番おもしろいと思つて話しを聞いているのは、今日あったことです。おばあちゃんが、「今日もアヒルが六わきたんだよ。きつとえさをもらいにきたんだね」。

という、お父さんが、「生きものは、最後までかわなくちゃ。アヒルもかいきれなくなつたんだらう」といいました。「でも今日は、アヒルにみみずのとりかた

「家庭の日」について

中宮祠小学校五年 小茂田 美加

(現在中宮祠小学校六年)

をおしえてやったよ。最初はおつかなびっくりだったけどすぐなれたよ。と、おばあちゃんがいました。わたしの家には、なぜか不思議に生きものがなれてしまいます。空からはいつもとんびが二わえさをとりまきます。湖水から

は、ごごがたくさんえさのくるのをまっています。あのアヒルだつてそうです。それに、うちでかつてくる犬のコロとかめが、二ひきいます。きつとみんな動物がすきなんだらうと思います。その他にも、たくさんの話題があります。この間のすきやきを食べた時なんかは、お母さんが、「今日はおいしそうなにおいだ。きつと今ばんはごちそうだぞ。と、コロがいつてはなをクンクンさせているわ」。

といつたりしています。いつもこんな楽しい話題ばかりなので、夕食の時間は一時間から二時間になつてしまいます。わたしの家は、レストランをやつていたので夏は、かせぎ時だからといって、どこへもつれていってもらえませんが、秋にお手伝いさんたちと旅行するのですが、わたしとお兄ちゃんは学校なので親せきの家にとまります。だからほとんどとまりません。だからどう考えても夕食の時間が一番です。わたしの家庭の日は、毎日夜、みんなでお話したりわらつたりすることです。わたしは、この時間を大切に、世界一の楽しい家庭の日をつくりたいと思います。